



## 説教要旨

# 「あなたの光で照らしてください」

ルカによる福音書 11章 33～36節

「あなたの体のともし火は目である」(34節)

目は、光を受け止めるための器官です。ともし火の光が目がしっかり受け止めていれば、その光によって全身が照らされ明るくなる、しかし目が光を受け止めることができないと、ともし火が輝いていてもその人の世界は暗いままだと言われていきます。

光を受け止めるべき目が悪くなっているために、今日の前で示されているみ言葉の光に照らされることができずにいる私たちではないでしょうか。イエス様は、目の前で輝いているみ言葉の光を受け止めることができなくなり、その結果私たちの内にある光が消えてしまうことのないように、いつも澄んだ目でみ言葉の光を見つめ、それによって照らされることによって全身が明るくなるようにしなさい、と言われるのです。

私たちが自分の内に光を持つことができるとしたら、それは自分で自分を磨いて、善行を積み、自分自身の内側から光を放とうとすることによってではなくて、目を常にまっすぐにみ言葉の光へと向けて、その光を自らの内に取り込むことによってです。私たちの目がみ言葉の光をしっかり見つめているならば、「ともし火がその輝きであなたを照らすときのように、全身は輝く」(36節)のです。私たちが自分の中に光を持っているからではありません。イエス様によって与えられたみ言葉の光に照らされることによって、私たちは明るく輝くことができるのです。

「ともし火をともして、それを穴蔵の中や、升の下に置く者はいない」(33節)。

み言葉の光に照らされる時、私たちは自分が明るく生きることができただけでなく、周囲をもその輝きで照らす者となることができます。み言葉の光に全身を明るく照らされることによって、私たちも、闇の中に輝くともし火となることができるのです。自分の中にいくら探し求めても見出すことのできない、どんなに自分を磨いても決して作り出すことのできない、救いの光へと世の人々を招くともし火とされるのです。



(2019・6・23 説教者：稲垣真実)